

2025 年度 シラバス (講義計画)

学校法人 立志舎
専門学校日本動物 2 1
動物管理学科・ドッグトレーニングコース [2 年制]

別表 I
昼間部 動物管理専門課程（文化・教養） 動物管理学科 ドッグトレーニングコース〔2年制〕

頁数	科目区分	必修・ 選択の別	授業科目	授業 形態	第一学年		第二学年		授業時数 合計	単位数 合計
					授業時数	単位数	授業時数	単位数		
1	一般科目	必修	ビジネスマナー	講義	60	2			60	2
2			就職ゼミナール	演習			60	2	60	2
3		選択必修	総合講座Ⅰ	講義	30	1			30	1
4			総合講座Ⅱ	講義	30	1			30	1
5			コンピュータ演習Ⅰ	演習	60	2			60	2
6			コンピュータ演習Ⅱ	演習			60	2	60	2
7	専門科目	必修	卒業研究	演習			150	5	150	5
8			グルーミング実習Ⅰ	実習	90	3			90	3
9		グルーミング実習Ⅱ	実習	90	3			90	3	
10		グルーミング実習Ⅲ	実習			90	3	90	3	
11		グルーミング実習Ⅳ	実習			30	1	30	1	
12		選択必修	グルーミング論Ⅰ	演習	30	1			30	1
13			グルーミング論Ⅱ	演習	30	1			30	1
14			グルーミング論Ⅲ	演習			30	1	30	1
15			犬の行動心理学Ⅰ	演習	30	1			30	1
16			犬の行動心理学Ⅱ	演習	30	1			30	1
17			犬の行動心理学Ⅲ	演習			30	1	30	1
18			犬の行動心理学Ⅳ	演習			30	1	30	1
19			インターンシップ	実習	45	1			45	1
20			基礎獣医学Ⅰ	講義	30	1			30	1
21			基礎獣医学Ⅱ	講義	30	1			30	1
22			基礎獣医学Ⅲ	講義			30	1	30	1
23			基礎獣医学Ⅳ	講義			30	1	30	1
24			動物学	講義	30	1			30	1
25			ペットシッティング実習Ⅰ	実習	45	1			45	1
26		ペットシッティング実習Ⅱ	実習	45	1			45	1	
27		ペットシッティング実習Ⅲ	実習			45	1	45	1	
28		ペットシッティング実習Ⅳ	実習			45	1	45	1	
29		動物関係法令	演習	60	2			60	2	
30		家庭動物管理学	講義	60	2			60	2	
31		接客マナー	講義			60	2	60	2	
32		しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰ	実習	90	3			90	3	
33		しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅱ	実習	90	3			90	3	
34		しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ	実習			90	3	90	3	
35		しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ	実習			30	1	30	1	
必修科目合計							60		210	
選択必修科目合計							945		600	
卒業に必要な総授業時数							920		800	
									1720	

1. 講義・演習は15時数～30時数で1単位とし、実習は30時数～45時数で1単位とする。
2. 選択必修についてはこの中から46単位以上を履修すること。
3. 次に定める授業科目の履修等は、本校各課程の修了に必要な総授業時数の2分の1を超えない範囲で、当該課程における授業科目の履修とみなす。

科目区分	履修する専門学校	履修科目	本校において履修したとみなす授業時数（単位数）
一般科目	東京法律公務員専門学校 法律専門課程 行政学科（1年制）	社会科学概論	40時間（2単位）
		社会科学演習	60時間（3単位）
		人文科学概論	40時間（2単位）
		人文科学演習	40時間（2単位）
		自然科学概論	40時間（2単位）
		自然科学演習	40時間（2単位）
専門科目	東京法律公務員専門学校 法律専門課程 行政学科（1年制）	判断推理	40時間（2単位）
		判断推理演習	100時間（5単位）
		数的推理	60時間（3単位）
		数的推理演習	100時間（5単位）
		トレーニング演習Ⅰ	20時間（1単位）

科目名：ビジネスマナー

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2

種類：一般科目 分類：必修

授業方法：講義

担当教員：本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある教員とは、新人社員研修、接客・接客マナー研修を事業展開している企業の研修担当者。獣医学専門誌、動物看護専門誌、トリマー向けの専門誌などの出版事業を行っている企業の営業部長である。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

本講義では、社会人として必要なビジネスマナーについて学ぶ。学生としての意識・行動を顧み、社会人としての自覚や責任感を持つ。基本的なビジネスマナーを理解し組織の一員として働く留意点を学び、仕事を行う上で必要な職場における気配り・心配り・気遣いのできる社会人になることを目標とする。本講座は、本学教員による講義と併せて、ビジネスマナーについて精通している外部教員の講話により構成される。ビジネス能力検定（B検）ジョブパスの受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. 職場の人間関係
2. 就業中のマナー
3. 挨拶とお辞儀
4. 服装・身だしなみ
5. 話し方の基本
6. 言葉遣い
7. 上司・来客との話し方・聞き方
8. 電話対応
9. 来客対応
10. 名刺交換と紹介
11. 面談
12. 冠婚葬祭のマナー
13. 新入生就職セミナーの開催（2024年4月実施予定）
14. 講演会の実施
15. ビジネス能力検定（B検）ジョブパスの受験

〔テキスト〕

ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト・問題集、必要に応じプリントを配付する。

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：就職ゼミナール

開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2

種類：一般科目 分類：必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員及び実務経験のある教員（各業界を代表する企業の人事担当者）

〔講義主要目標及び講義概要〕

社会人として必要とされる基本的なものの見方や考え方・行動の仕方について理解を深め、礼儀・ビジネスマナーの修得を目標とする。更には、面接選考の仕組みを理解し、GD／集団面接／個別面接／最終面接の面接ポイントを理解する講座。また自分の過去を体系的に整理し、自己分析を行いエントリーシートの作成や履歴書の作成に備える。本講座は、本学教員による演習と併せて、人事採用状況について精通している外部教員（各業界を代表する企業の人事担当者）の講話により構成される。

〔講義・演習項目〕

1. 職業についての考え方
2. 就職を取り巻く社会状況の分析
3. 就職活動の予備知識
4. 企業研究の仕方
5. 自己分析の仕方
6. 礼儀・マナーの知識
7. 敬語表現
8. ビデオ等による事例研究
9. 履歴書作成
10. 面接練習
11. 学内就職セミナー、学内就職説明会の実施

〔テキスト〕

必要に応じプリントを配付する。

〔成績評価〕

授業期間中に提出されるレポート、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：総合講座 I

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1
種類：一般科目 分類：選択必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付けることを目標とする。非言語分野を中心に繰り返し演習を行い「解法」を身に付ける講座。就職活動を円滑に進めるための目的ではあるが、仕事を行う上で最低限必要な知識を身に付け、企業で役立つ社会人になることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 割合を解く
2. 文字式で解く
3. 表を読む
4. 図で解く
5. ゲーム感覚で解く
6. 公式で解く
7. フローチャート
8. 特殊な計算
9. 理科問題を解く
10. 言葉を比べる
11. 長文を読む

〔テキスト〕

SPI 基礎（ベシック）テキスト、問題集、必要に応じプリントを配付する

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：総合講座Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1
種類：一般科目 分類：選択必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける基礎講座の後、応用問題に取り組みより正確かつ迅速に演習ができるようにすることを目標とする。また、就職活動を始める前段階として社会でのマナーと技能を弁え、「コミュニケーション」でビジネス上でより良い人間関係を築くスキルを、「ビジネスマナー」で業務をスムーズに進めて行く中で必要なマナーや技術をはぐくむ講座。就職活動を円滑に進めるための目的ではあるが、仕事を行う上で最低限必要な知識を身に付け、企業で役立つ社会人になることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 割合を解く（応用問題）
2. 文字式で解く（応用問題）
3. 表を読む応用（応用問題）
4. 図で解く応用（応用問題）
5. ゲーム感覚で解く（応用問題）
6. 公式で解（応用問題）
7. フローチャート（応用問題）
8. 特殊な計算（応用問題）
9. 理科問題を解く（応用問題）
10. 言葉を比べる（応用問題）
11. 長文を読む（応用問題）

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：コンピュータ演習 I

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2
種類：一般科目 分類：選択必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペット業界であってもパソコンの操作技術は業務を円滑に進めるツールである。本講座では、パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Word を中心として、PowerPoint 等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail 等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学び、実践で役立つ人材の育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 文書の作成
2. 文書の管理
3. 文字、段落、セクションの書式設定
4. 表の作成、変更
5. リストの作成、変更
6. 参考資料の作成
7. 参考資料の管理
8. グラフィック要素の挿入
9. グラフィック要素の書式設定
10. 模擬試験

〔テキスト〕

MOS Word365 対策テキスト&問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：コンピュータ演習Ⅱ

開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2
種類：一般科目 分類：選択必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペット業界であってもパソコンの操作技術は業務を円滑に進めるツールである。パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Excel を中心として、PowerPoint 等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail 等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学び、実践で役立つ人材育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. ワークシートやブックの作成
2. ワークシートやブックの管理
3. セルやセル範囲のデータの管理
4. テーブルの作成
5. 関数によるデータの集計
6. 関数による条件付き計算
7. 関数による書式設定
8. グラフの作成
9. グラフの書式設定
10. オブジェクトの挿入、書式設定
11. 模擬試験

〔テキスト〕

MOS Excel365 対策テキスト&問題集、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：卒業研究

開講年次：2年 授業時数：150 単位数：5
種類：専門科目 分類：必修
授業方法：演習
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

就職先の業界研究など各自の定めたテーマに沿って卒業研究の成果として提出する論文を作成する。卒業論文を完成させることを通じて、将来、テーマに精通する者として、そして一社会人として自ら考え、行動することを目標とする。動物看護コースにおいては、専門分野を選定し、論文のテーマとして提出することを推奨している。

〔講義・演習項目〕

1. 卒業研究概要
2. テーマの選定
3. テーマの決定
4. テーマの研究
5. 情報収集
6. 情報研究
7. 下書き作成
8. 下書き校正
9. 清書作成
10. 製本

〔テキスト〕

学生が収集した卒業研究に関する資料
独自に作成したプリント教材（論文書き方等説明）

〔成績評価〕

目標進捗度に合わせた提出期限内での提出状況、提出された論文の内容、出席状況等を総合的に判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名: グルーミング実習 I

開講年次: 1年 授業時数: 90 単位数: 3

種類: 専門科目 分類: 選択必修

授業方法: 実習

担当教員: 実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員 (実務経験のある本学教員はトリマー経験が4年、専門学校での教員経験が4年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。)

〔講義主要目標及び講義概要〕

グルーミングの基礎知識を実習から学び、トリミング基礎技術を修得することを目標とする。グルーミングの基礎知識として、犬の骨格・犬体名称・体温測定・耳及び爪の構造並びに手入れの方法や犬用シャンプー及びリンスの種類と効用などを講義及び実習にて学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1. 健康管理 (体温測定・脈拍測定) 実践
2. 保定方法 (小型犬・中型犬・大型犬) 実践
3. 耳の手入れ法の実践
4. 爪の手入れ法の実践
5. ブラッシングの実践
6. シャンプーイングの実践
7. ドライングの実践
8. クリッパーの実践
9. ダックスフンドのグルーミング実践
10. チワワのグルーミング実践

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験 (実技)、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名: グルーミング実習Ⅱ

開講年次: 1年 授業時数: 90 単位数: 3

種類: 専門科目 分類: 選択必修

授業方法: 実習

担当教員: 実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員(実務経験のある本学教員はトリマー経験が4年、専門学校での教員経験が4年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。)

〔講義主要目標及び講義概要〕

グルーミングの基礎知識を実習から学び、基本的な技術を身に付け迅速かつ丁寧に作業を行い、ペイジングを一人でできるような実習を行う。実習の内容は、実務経験のある本学教員が経験した実体験に沿って、怪我のリスクなども考慮した実務の経験に基づいた内容とし、自立した職業人(トリマー)を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 小型犬のペイジング
2. 大型犬のペイジング
3. トリミングの基本
4. 短毛種のシャンプーの仕方
5. 長毛種のシャンプーの仕方
6. 大型犬のシャンプーの仕方
7. グルーミング犬種のカットの実践
8. トリミング犬種のカットの実践
9. クリッパーの使い方
10. 犬種別の応用

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験(実技)、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名:グルーミング実習Ⅲ

開講年次:2年 授業時数:90 単位数:3

種類:専門科目 分類:選択必修

授業方法:実習

担当教員:実務経験のある教員(トリミングサロンでの勤務歴が20年あり、サロンマネージャーとして店舗運営にも携わってきた。また、トリミングスクールでの教員経験もあり、こうした経験に基づいた技術的な授業はもちろん飼主目線、学生目線での授業も展開する。)

〔講義主要目標及び講義概要〕

小型犬・大型犬などの多種多様な犬種の特徴に合わせたグルーミングやトリミングが実践できるような技術を修得し、トリマーとしての応用力を育成すること目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. プードルのケネル&ラムクリップのトリミング実践
2. プードルのテディ・ベアカットのトリミング実践
3. ポメラニアン of トリミング実践
4. シーズーのトリミング実践
5. マルチーズのトリミング実践
6. ミニチュア・シュナウザーのトリミング実践
7. ヨークシャーテリアのトリミング実践
8. ゴールデンレトリバーのトリミング実践
9. スタンダード・プードルのトリミング実践

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験(実技)、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名: グルーミング実習Ⅳ

開講年次: 2年 授業時数: 30 単位数: 1

種類: 専門科目 分類: 選択必修

授業方法: 実習

担当教員: 実務経験のある教員 (トリミングサロンでの勤務歴が20年あり、サロンマネージャーとして店舗運営にも携わってきた。また、トリミングスクールでの教員経験もあり、こうした経験に基づいた技術的な授業はもちろん飼主目線、学生目線での授業も展開する。)

〔講義主要目標及び講義概要〕

小型犬から中・大型犬について多種多様な犬種の特徴に合わせたトリミング技術を高めるとともに、飼い主からのオーダーに合わせたグルーミングができる技術を修得し、トリマーとしての実践力の育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 各犬種に対応するグルーミング技術の実践
2. アメリカン・コッカー・スパニエルのトリミング実践
3. ウェスト・ハイランド・ホワイトテリアのトリミング実践
4. シェットランド・シープドッグのトリミング実践
5. ペキニーズのトリミング実践

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、実習の成果、各学期末に行う試験(実技)、実習レポート、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：グルーミング論 I

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員： 実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある本学教員はトリマー経験が4年、専門学校での教員経験が4年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

グルーミング実習を行うにあたり使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の基礎について講義、演習を行う。道具を常に清潔に扱えるトリマーの育成を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. グルーミングの目的
2. 犬体・骨格の名称
3. グルーミング道具の使用方法とお手入れ方法
4. 健康管理（体温測定、脈拍測定、体重測定など）
5. 犬の保定法（小型犬・中型犬・大型犬）
6. 耳掃除の方法
7. 爪切りの方法
8. シャンプーイングの方法
9. ドライングの方法
10. ダックスフンドのグルーミング方法
11. チワワのグルーミング方法

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：グルーミング論Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：実務経験のある本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある本学教員はトリマー経験が4年、専門学校での教員経験が4年あり、技術力、指導力共に備わっており、トリマーを目指す学生目線での実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

犬種の特徴合わせたグルーミング方法とトリミング方法について、必要な知識の修得をを目標とする。特に、トリミング犬種の基本となるプードルのペットカット技法を中心に修得することを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 小型犬のグルーミング方法
2. 大型犬のグルーミング方法
3. プードルのケネル・クリップ（後躯）トリミング方法
4. プードルのケネル・クリップ（前躯）トリミング方法
5. プードルのケネル・クリップ（頭部）トリミング方法
6. プードルのテディ・ベアカット（頭部）トリミング方法
7. プードルのテディ・ベアカット（体躯）のトリミング方法
8. プードルのテリア・カット（頭部）のトリミング方法
9. プードルのテリア・カット（体躯）のトリミング方法

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、演習の成果、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：グルーミング論Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（トリミングサロンでの勤務経験が15年あり、店長として店舗管理やスタッフの指導経験があり、飼主目線での授業が展開できる。仕上げだけではなく、犬体の特徴を生かしたカットスタイルが得意で、トリマーとして働く目の前の学生にとって魅力的な授業を展開する。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

小型犬・大型犬の多種多様な犬種の特徴を学び、犬種に合わせたトリミングが実践できるような知識の修得を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. ポメラニアン（スタンダード・スタイル）のトリミング方法
2. ポメラニアン（ショート・カット）のトリミング方法
3. シーズーの（ショート・カット）のトリミング方法
4. マルチーズ（ロング・スタイル）のトリミング方法
5. マルチーズ（サマー・カット）のトリミング方法
6. ミニチュア・シュナウザー（ペット・スタイル）
7. ヨークシャーテリア（ショート・カット）のトリミング方法
8. ヨークシャーテリア（テリア・カット）トリミング方法
9. ゴールデンレトリバーグルーミング方法
10. ゴールデンレトリバー（ショート・スタイル）のトリミング方法

〔テキスト〕

Dog Grooming Book、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：犬の行動心理学 I

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある教員は、犬の訓練所において5年の勤務経験があり、主に家庭犬の育成に従事。自らの実務経験を基に、飼主に寄り添う犬の訓練士として基礎訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

犬の生態や習慣、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が人間社会で犬と生活するうえで欠かせないものであることを理解する。また、純粋犬種を守って後世に伝えていくという目的も有しているドッグショーにおいて、ハンドラーの役割が重要であり、犬の基本的な扱い方としてハンドリング技術を身につけることを目標とする。全日本ハンドリング検定試験の受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. しつけとは何か
2. トレーニングの必要性
3. トレーニングの重要性
4. 犬の起源と変化
5. 犬の役割について
6. 犬のコミュニケーションと学習
7. 成長過程での学習の大切さ
8. ハンドリングとドッグショーの歴史
9. 犬の体の構造
10. ハンドリング技術①（スタック）
11. ハンドリング技術②（アップ&ダウン）
12. ハンドリング技術③（トライアングル）
13. ハンドリング技術④（ラウンド）
14. ハンドリング技術⑤（リードワーク）
15. 全日本ハンドリング検定試験の受験

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、演習の成果、演習レポート、各学期末に行う試験等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：犬の行動心理学Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員及び実務経験のある教員（実務経験のある教員は、犬の訓練所において5年の勤務経験があり、主に家庭犬の育成に従事。自らの実務経験を基に、飼主に寄り添う犬の訓練士として基礎訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

犬の行動特性を学ぶうえで、様々な犬種を扱いながら犬の行動や状態、性格分析を行うことを目標とする。また、各犬に応じた接し方を学ぶことで、人間と犬との関係性（コミュニケーション）の築き方を学び、犬とのコミュニケーションが円滑に進めるような演習を展開する。犬とのコミュニケーションができるようになって、停座訓練、伏臥訓練、招呼訓練へと進むことができる。

〔講義・演習項目〕

1. しつけに必要な理論
2. 犬のボディランゲージ
3. カーミング・シグナル（犬の範囲認識）
4. カーミング・シグナル（犬のストレス）
5. 犬のコミュニケーション
6. ケージに入って休むことの大切さ
7. いかにして犬のリーダーになるか
8. 犬の状態を理解する①（犬の触り方）
9. 犬の状態を理解する②（犬との親和）
10. 指示の仕方や種類（声符、視符）
11. 停座訓練
12. 伏臥訓練
13. 招呼訓練
14. 居座、立止訓練
15. 脚側行進訓練

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、演習の成果、演習レポート、各学期末に行う試験等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：犬の行動心理学Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：実務経験のある教員（犬の訓練所において22年の勤務経験があり、家庭犬や警察犬の育成に従事。犬の訓練士公認資格の他、インストラクター、競技審査員の資格を有す。こうした実務経験に基づいた犬の訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

応用編として動物行動学や学習理論に基づき各犬の行動・性格分析を行い、適切な接し方を実践したうえで、効果的にトレーニング（犬の行動を引き出す技術）を行うことを目標とする。応用編とはいえ、犬の行動心理学Ⅱで学修した停座訓練、伏臥訓練、招呼訓練、居座、立止訓練、脚側行進訓練は重要技法であり、継続して行っていく。

〔講義・演習項目〕

1. 犬のトレーニング（犬の学習と効果）
2. 犬のトレーニング（正の強化と効果）
3. 犬のトレーニング（一次性強化子・二次性強化子）
4. 犬のトレーニング（嫌悪刺激について）
5. 犬のトレーニング（基本的な指針）
6. 犬の行動を引き出す
7. 犬という動物を見直す
8. 停座訓練
9. 伏臥訓練
10. 招呼訓練
11. 居座、立止訓練
12. 脚側行進訓練

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、演習の成果、演習レポート、各学期末に行う試験等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：犬の行動心理学Ⅳ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：実務経験のある教員（犬の訓練所において22年の勤務経験があり、家庭犬や警察犬の育成に従事。犬の訓練士公認資格の他、インストラクター、競技審査員の資格を有す。こうした実務経験に基づいた犬の訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

多くの犬種の特性と様々な問題行動を理解し、その対処法からトレーニング方法を考え実施する。また、仔犬を含めた犬に対するケアと管理の方法を理解し、第三者にもアドバイスできる人材となれることを目標とする。また、ドッグスポーツとしてアジリティ競技を学ぶ。ここで行うアジリティはハードル、ジャンプ障害、タッチ障害、その他障害を示す。

〔講義・演習項目〕

1. 咬みつく犬
2. 犬との暮らし
3. 犬の問題行動対処法
4. 人とのコミュニケーション・スキル
5. 犬のしつけトレーニングの基礎
6. 仔犬のしつけ教室
7. ケアと管理
8. アジリティ競技とは
9. ジャンプ障害（ハードル）
10. ジャンプ障害（ロングジャンプ）
11. タッチ障害（Aフレーム）
12. タッチ障害（ドッグウォーク）
13. その他障害（スラローム）
14. その他障害（トンネル（チューブ・ソフト））

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）および独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、演習の成果、演習レポート、各学期末に行う試験等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：インターンシップ

開講年次：1年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：企業連携先の担当者（実務者）、実務経験のある本学教員及び本学教員

（企業連携先の担当者（実務者）とは、企業連携先の獣医師、動物看護師、犬の訓練士、トリマー等のことで、これらの中で実務的な作業を企業連携授業として展開する。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

生涯職業計画の指針として、職業選択、適性を見極めを目的として職場体験を行う。インターンシップ先は、原則として学生自身が希望する職業分野の企業にて行う。内容は、飼育・販売・接客・サービス等幅広い分野より選択でき、飼主目線での接遇法の修得を目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 社会人と学生の違い
2. 業界の知識
3. あいさつ・敬語の使い方
4. 就業中のマナー
5. 電話対応
6. 接客対応
7. 金銭管理
8. 生体管理・飼育方法
9. 消耗品の管理
10. 備品の管理
11. インターンシップ実施期間：2025年1月31日～2月6日の間で実施予定

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

通常登校時の出席状況、インターンシップ先への出席状況、インターンシップ評価書及びインターンシップ日誌等において総合的に判断する。

科目名：基礎獣医学Ⅰ

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（担当獣医師は市役所入庁後、動物園動物の診療、防疫、狂犬病予防員、畜検検査業務、動物の衛生コントロール、野生動物による農業被害対策業務等を担当した。また、鳥獣保護センターでは幼傷病野生鳥獣の救護、治療を行っていた様々な経験から、多方向から考察できる授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の体の組織や器官の仕組みを理解出来るようにする。また、動物をとり囲む環境要因や疾病についても学ぶ。身近な動物である犬のからだ、骨格、病気について主に学び、日常の健康管理、感染症について学習し、飼主にアドバイスができる人材になることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 動物ののからだの仕組みと働き
2. 動物の飼養管理（総論）
3. 犬の飼養管理
4. 猫の飼養管理
5. 日常の健康管理
6. ワクチンで予防できる病気
7. 外部寄生虫の予防
8. 外部寄生虫の駆除
9. 腸管内寄生虫の予防
10. 腸管内寄生虫の駆除

〔テキスト〕

愛玩動物飼養管理士2級 第2巻、コンパニオン・アニマルの新健康管理学

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：基礎獣医学Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（担当獣医師は市役所入庁後、動物園動物の診療、防疫、狂犬病予防員、畜検検査業務、動物の衛生コントロール、野生動物による農業被害対策業務等を担当した。また、鳥獣保護センターでは幼傷病野生鳥獣の救護、治療を行っていた様々な経験から、多方向から考察できる授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の体の組織や器官の仕組みを理解し、動物の状態確認や応急処置に対応できるようにする。また、動物を取り囲む環境要因や主な感染症と予防についても学習し、飼主にアドバイスができる人材になることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 動物の状態確認の方法
2. 外傷応急処置
3. その他の応急処置
4. 中毒について
5. 人工呼吸とマッサージ
6. 感染症概論
7. 滅菌と消毒
8. 消毒薬
9. 院内・店内感染
10. 代表的な感染症とその予防

〔テキスト〕

愛玩動物飼養管理士2級 第2巻 コンパニオン・アニマルの新健康管理学

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：基礎獣医学Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（担当獣医師は市役所入庁後、動物園動物の診療、防疫、狂犬病予防員、畜検検査業務、動物の衛生コントロール、野生動物による農業被害対策業務等を担当した。また、鳥獣保護センターでは幼傷病野生鳥獣の救護、治療を行っていた様々な経験から、多方向から考察できる授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

感染症の中でも人に感染するズーノーシスについて学習する。感染経路や症状を理解し、予防できることを目標とする。また、主となる家庭動物である犬や猫の繁殖生理や解剖生理、分娩について学ぶ。さらに幼齢動物・老齢動物の飼育管理を理解する。

〔講義・演習項目〕

1. ズーノーシス概論
2. 狂犬病
3. 代表的なズーノーシス
4. 食中毒を引き起こすズーノーシス
5. ズーノーシスの予防法
6. 繁殖の基礎知識
7. 受精・分娩・新生子の管理
8. 遺伝学
9. 幼齢動物の管理
10. 老齢動物の管理

〔テキスト〕

コンパニオン・アニマルの新健康管理学、補助プリント

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：基礎獣医学Ⅳ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：講義

担当教員：実務経験のある教員（担当獣医師は市役所入庁後、動物園動物の診療、防疫、狂犬病予防員、畜検検査業務、動物の衛生コントロール、野生動物による農業被害対策業務等を担当した。また、鳥獣保護センターでは幼傷病野生鳥獣の救護、治療を行っていた様々な経験から、多方向から考察できる授業を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

哺乳類に加え、鳥類・爬虫類の体の仕組みと特性を学び幅広い動物に対応できるようにすることを目標とする。さらに、産業動物、実験動物などについても理解し、課題や関連法規について学習する。

〔講義・演習項目〕

1. エキゾチックアニマル
2. 犬と猫の歴史と種類
3. 動物行動学
4. 産業動物
5. 実験動物
6. 展示動物
7. 野生動物
8. 動物福祉と人間動物関係学
9. 動物看護の関連法規
10. 動物看護の課題

〔テキスト〕

コンパニオン・アニマルの新健康管理学、補助プリント

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物学

開講年次：1年 授業時数：30 単位数：1
種類：専門科目 分類：選択必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

用途別に犬種を分類しその特徴や性格について研究する。併せて、猫の品種についても学習し、その性格、飼い方のポイントについて理解することを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. 犬の体の部位・骨格
2. ガン・ドッグの犬種名及び特徴性格
3. ハウンドの犬種名及び特徴性格
4. ワーキング・ドッグの犬種名及び特徴性格
5. テリアの犬種名及び特徴性格
6. トイの犬種及び特徴性格
7. コンパニオン・ドッグの犬種名及び特徴性格
8. 猫の体形と部位名称
9. 猫の品種とその性格
10. 猫の飼育管理

〔テキスト〕

世界の犬図鑑、世界の猫図鑑、犬学猫学各資料プリントにて対応

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ペットシッティング実習Ⅰ

開講年次：1年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。そして、飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。ペットシッティングを通じて動物愛護の精神を涵養し、動物の取扱い、動物の福祉について学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1. 動物の観察と取扱い①
2. 給餌、給水と体重管理①
3. 適切温度及び湿度の管理①
4. 動物の健康管理①
5. 動物に異常があった場合の対応①
6. 飼養施設の清掃と消毒①
7. 廃棄物処理及び衛生管理①
8. 動物愛護論①
9. 緊急時の対応①
10. 報告書と引継ぎ書作成①

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材、学校犬の飼育管理を通じて修得

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ペットシッティング実習Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身につける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。ペットシッティングを通じて動物愛護の精神を涵養し、動物の取扱い、動物の福祉について学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1. 動物の観察と取扱い②
2. 給餌、給水と体重管理②
3. 適切温度及び湿度の管理②
4. 動物の健康管理②
5. 動物に異常があった場合の対応②
6. 飼養施設の清掃と消毒②
7. 廃棄物処理及び衛生管理②
8. 動物愛護論②
9. 緊急時の対応②
10. 報告書と引き継ぎ書作成②

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材、学校犬の飼育管理を通じて修得

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ペットシッティング実習Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身につける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理に努め、温度及び湿度を管理し、動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。ペットシッティングを通じて動物愛護の精神を涵養し、動物の取扱い、動物の福祉について学ぶ。また、管理、指導役としてペットシッティング実施者へのアドバイス、作業状態をチェックできるよう、飼養施設の管理を総合的に把握する能力を身につける。

〔講義・演習項目〕

1. 動物飼養室の管理③
2. 体重管理①
3. フードの適正量①
4. 適切温度及び湿度の管理③
5. 消毒薬品等の管理①
6. 消耗品管理①
7. 廃棄物処理及び衛生管理③
8. 動物愛護論③
9. 緊急時の対応③
10. 犬舎管理責任者対応①

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材、学校犬の飼育管理を通じて修得

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：ペットシッティング実習Ⅳ

開講年次：2年 授業時数：45 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

動物の飼養施設の衛生管理、温度及び湿度の管理、給餌と給水を適切に行う知識と技術を学校犬へのペットシッティングを通じて身につける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。また、管理、指導役としてペットシッティング実施者へのアドバイス、作業状態をチェックできるよう、飼養施設の管理を総合的に把握する能力を身につける。

〔講義・演習項目〕

1. 動物飼養室の管理④
2. 体重管理②
3. フードの適正量②
4. 適切温度及び湿度の管理④
5. 消毒薬品等の管理②
6. 消耗品管理②
7. 廃棄物処理及び衛生管理④
8. 動物愛護論④
9. 緊急時の対応④
10. 犬舎管理責任者対応②

〔テキスト〕

独自に作成したプリント教材、学校犬の飼育管理を通じて修得

〔成績評価〕

出席およびレポートにより判断するが、評価にあたっては出席率を重視する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：動物関係法令

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：演習

担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

人と動物とのかかわりに関する基本法「動物の愛護及び管理に関する法律」等について正しい知識を学び、自らが啓発すると共に、その知識を飼い主に広められることを目標とする。日本においては動物に関する法律として約20種類ほどのものがあり身近な伴侶（愛玩）動物（飼養動物）として接するもの、自然の中に生息している野生動物として接するものとは大別できる。法が改正された際には速やかに対応する。

〔講義・演習項目〕

1. 動物と法律の関係
2. 動物関係法令
3. 動物の愛護及び管理に関する法律
4. 動物の飼養及び保管に関する基準
5. 動物愛護関係条例
6. 狂犬病予防法
7. 身体障がい者補助犬法
8. ペットフード安全法
9. 野生動物に関する法令。
10. 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律

〔テキスト〕

愛玩動物飼養管理士テキスト

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：家庭動物管理学

開講年次：1年 授業時数：60 単位数：2
種類：専門科目 分類：選択必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

ペット販売者は、命あるペットを販売する場合に、飼い主に対し社会的責任を果たすために必要なことを十分説明する責任がある。ペット業界に携わる者として必要な動物愛護管理法に関する知識を身につける必要があります。また、トラブルを予防するための基礎知識やアフターフォローの方法も学習し、お客様に対しての接客マナーを合わせて学びます。更に犬と猫を中心とした病気、繁殖、フード、しつけなども学習する。家庭動物管理士3級の受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. 動物取扱業者の職業倫理
2. 動物販売に必要な基礎知識と技術
3. 動物に関する基礎知識と適正飼養
4. 動物の適正飼養と管理
5. 動物の展示方法と衛生管理
6. 犬と猫の病気に関する知識
7. 人畜共通感染症についての理解
8. 犬と猫の適正な繁殖方法
9. 血統証明書の意義と見方
10. ペット関連法規
11. 家庭動物管理士3級の受験

〔テキスト〕

家庭動物管理士テキスト、独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：接客マナー

開講年次：2年 授業時数：60 単位数：2
種類：専門科目 分類：選択必修
授業方法：講義
担当教員：本学教員

〔講義主要目標及び講義概要〕

サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、応対の技術、口のきき方、態度・振舞いなど、接客技能を養うことが目標。身だしなみ、話し方や経済用語、社会常識、時事用語などの知識を身につけた上で、実際の事例を基に的確な対処ができる能力を習得する。実務技能においては、問題処理、環境整備、金品管理、金品搬送、社交業務の5分野について学ぶ。サービス接客検定2級の受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. サービススタッフの資質
2. 従業要件について
3. サービス知識について
4. 従業知識について
5. 社会常識とは
6. 対人技能の人間関係とは
7. 対人技能の接客知識について
8. 対人技能の話し方・服装について
9. 実務技能
10. 過去問題演習
11. サービス接客検定2級の受験

〔テキスト〕

サービス接客検定受験ガイド・サービス接客検定問題集

〔成績評価〕

授業期間中に実施される各テスト、各学期末に行う試験、出席等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰ

開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある教員（実務経験のある教員は、犬の訓練所において5年の勤務経験があり、主に家庭犬の育成に従事。自らの実務経験を基に、飼主に寄り添う犬の訓練士として基礎訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

人と犬の関係を歴史から理解したうえで、人と犬の関係をつなぐ用具やトレーニングの種類を学び、様々な犬とコミュニケーションが図れることを目標とする。その際、人間社会で犬と生活する上で必要となる「しつけ」とは何かを実践的に学び、「停座」「伏臥」「居座」などの「オビディエンス」の基本について学ぶ。リードをはじめとするトレーニングの道具は、将来、飼い主への訓練指導の際に役立つ説明の仕方まで学ぶ。

〔講義・演習項目〕

1. 日常での犬の接し方
2. おもちゃの種類
3. モチベーターについて
4. リードの種類
5. トレーニングの道具の種類
6. クレートからの出し方
7. コマンドの種類（声符、視符）
8. 停座訓練
9. 伏臥訓練
10. 招呼訓練
11. 居座、立止訓練
12. 脚側行進訓練
13. 校外実習（2024年5月1日～9月31日の間で計2回実施予定）

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）および独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、実習の成果、実習レポート、各学期末に行う試験（実技）等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅱ

開講年次：1年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある教員（犬の訓練所において22年の勤務経験があり、家庭犬や警察犬の育成に従事。犬の訓練士公認資格の他、インストラクター、競技審査員の資格を有す。こうした実務経験に基づいた犬の訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰを継続し、「しつけ」の基本となる「停座」「伏臥」「居座」「招呼」「脚側行進」などの「オビディエンス」技術を身につけ、実践できることを目標とする。また、実践する際に使用する用具についても適切な方法やタイミング、犬の行動に適した使用であるか実践の中で学ぶ。オブデスドッグアドバイザー試験の受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. 日常での犬の接し方
2. おもちゃでの遊び方
3. アイコンタクトの方法
4. リードの持ち方、扱い方
5. コマンドの出し方（声符、視符）
6. 停座訓練
7. 伏臥訓練
8. 招呼訓練
9. 居座、立止訓練
10. 脚側行進訓練
11. 校外実習（2024年10月1日～2025年3月31日の間で計3回実施予定）
12. オブデスドッグアドバイザー試験の受験

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）および独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、実習の成果、実習レポート、各学期末に行う試験（実技）等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ

開講年次：2年 授業時数：90 単位数：3

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある教員（犬の訓練所において22年の勤務経験があり、家庭犬や警察犬の育成に従事。犬の訓練士公認資格の他、インストラクター、競技審査員の資格を有す。こうした実務経験に基づいた犬の訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

ドッグトレーナーとして様々な犬を分析、対応するだけでなく、ドッグスポーツである「アジリティ」について学習する。また、犬に対する「アジリティ」で必要な訓練だけでなく、ハンドラーの動きや「コマンド」を学び、実践できることを目標とする。

〔講義・演習項目〕

1. アジリティ競技について
2. ハンドラーの動き（スイッチについて）
3. ジャンプ障害（ハードル）
4. ジャンプ障害（ロングジャンプ）
5. ジャンプ障害（タイヤ）
6. ジャンプ障害（レンガ（ウォール））
7. タッチ障害（Aフレーム）
8. タッチ障害（ドッグウォーク）
9. タッチ障害（シーソー）
10. その他（スラローム）
11. その他（トンネル（チューブ、ソフト））
12. 校外実習（2024年4月1日～9月31日の間で計2回実施予定）

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）および独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、実習の成果、実習レポート、各学期末に行う試験(実技)等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。

科目名：しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ

開講年次：2年 授業時数：30 単位数：1

種類：専門科目 分類：選択必修

授業方法：実習

担当教員：実務経験のある教員（犬の訓練所において22年の勤務経験があり、家庭犬や警察犬の育成に従事。犬の訓練士公認資格の他、インストラクター、競技審査員の資格を有す。こうした実務経験に基づいた犬の訓練実習を展開している。）

〔講義主要目標及び講義概要〕

しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲを継続し、オビディエンス訓練やアジリティ訓練の技術をさらに向上させる。停座訓練、招呼訓練、伏臥訓練、脚側行進訓練、居座、立止訓練はもちろんのこと、ジャンプ障害、タッチ障害に至るまで総合実習としての位置づけとなる。オブデスドッグサイエンスアドバイザー試験の受験に至る。

〔講義・演習項目〕

1. 停座訓練
2. 招呼訓練
3. 伏臥訓練
4. 脚側行進訓練
5. 居座、立止訓練
6. ジャンプ障害（ハードル）
7. ジャンプ障害（ロングジャンプ）
8. ジャンプ障害（タイヤ）
9. ジャンプ障害（レンガ（ウォール））
10. タッチ障害（Aフレーム）
11. タッチ障害（ドッグウォーク）
12. タッチ障害（シーソー）
13. その他（スラローム）
14. その他（トンネル（チューブ、ソフト））
13. 校外実習（2022年10月1日～2023年1月17日の間で計2回実施予定）
14. オブデスドッグサイエンスアドバイザー試験の受験

〔テキスト〕

犬のしつけ学（基礎と応用）および独自に作成したプリント教材

〔成績評価〕

授業期間中の出席、実習の成果、実習レポート、各学期末に行う試験(実技)等を総合して判断する。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、評価を受けることができない。